

生涯学習情報紙



2024

11月

発行：大和村教育委員会事務局・中央公民館

第371号

長田須磨シンポジウム開催



昭二兄の四方山話 (よもやまばなし)

第3回の長田須磨シンポジウムが開催されます。今回のテーマは「ITによる文化継承と発信」。奄美に伝わる大切な文化を伝承していくために、長田さんの出生地である大和村でシンポジウムを行います。

多くの皆さんの参加をお待ちしております。
(詳細は、配布のチラシをご覧ください)

開催日時 2024年11月2日(土)

14:00~16:00

場所 大和村防災センター/定員100名

長田須磨は、「私は最後の奄美古代人」と自分を表し、母音が多く発音しにくい奄美方言を標準と音声に残しました。これらの長田の業績を軸に、奄美に伝わる大切な文化を、新しい形を含めて継承していくために、出生地である大和村でシンポジウムを開きます。

プログラム

- ◆はじめの挨拶 大和村長 伊集院 幼
- 【第1部】講演
「奄美方言分類辞典」にみる奄美のくらしーデジタル版を視聴してー
符保繁久(琉球大学戦略的プロジェクトセンター)
- 「奄美の民話と昔がたり」音声と映像のデジタル化
倉重賢治、岡村俊彦 (鹿児島県立短期大学)
- 【第2部】
「奄美文化継承プロジェクトの今までとこれから」
ー東京、カリフォルニア等とリモート連絡ー
見目正克(奈良女子大学名誉教授)
- ◆終わりの挨拶 黒原弘久(大和村教育委員会委員長)

今回のテーマは
ITによる文化継承と発信

長田須磨 Suma Osada
1902年奄美大島の長田村生まれ。1950年刊、藤田啓治主宰の女性民俗研究会に参加し、奄美文化の継承を志す。「奄美方言分類辞典」「奄美の生活とむかし話」等の著作・編集を手がける。1998年没。

絶滅の奄美語(不適切語編)

私たちが子供の頃(昭和30年代)は差別的な言葉が横行していました。特にケンカ相手をののしる言葉は現在では不適切な言葉とされています。当時は周りも特に気にすることもなく、心を傷つけるような性格や身体的な特徴を口に出すような用語が多くあり反省するばかりです。不愉快な気持ちになると思いますが、このような言葉があったことをご理解いただけたらと思います。

- フガマチ・・・普通よりあたまの大きいこと
- ミシゲガマチ・・・頭の後頭部が絶壁なこと(みしげ、しゃもじのこと)
- ズイツィガマチ・・・頭の脳ミスが発達し後頭部が後ろへ出っ張っていること
- ヨガガマチ・・・頭の後頭部が変形し横になっていること
- シブリガマチ・・・頭の形が細長いこと(ウスイガマチ)ともいう
- ハグィガマチ・・・頭が薄いこと
- マンガリガマチ・・・天然パーマのこと
- トゥビィガツツイ・・・髪の毛が刺さるような直毛のこと
- クルヴツタガオ、ミチャガオ、スイツィグルガオ・・・顔が黒い人
- タマチジ・・・つむじが二つあること
- ボット、タラン、ノオツィブル、ハチゴ・・・ばかという表現
- フルィムン、フルィボット・・・間抜け、あほの表現
- ヨッスイワル・・・容姿が良くない人のこと
- ヤーギロ・・・内弁慶なこと
- サヴェ・・・性格が悪い人のことを言う
- バンジョガネ・・・融通のきかない几帳面な性格の人
- エンガバツケ・・・男っぽい女性
- エンガグィ・・・男っぽい声の女性
- エンガガオ・・・男のような顔の女性
- キンハブ・・・体は小柄だが男と口論しても絶対負けないう怖い女性
- マツタハブ・・・人の言動を食う人のことを言う
- ワタグルサ・・・腹黒い人間のこと
- カツテムン・・・身勝手な人間

(参考資料・岡山 計 奄美語)

※ 訂正

前回の生涯学習情報誌10月号の本の読む果てやねんのコーナーの中で誤りがありましたので、訂正願います。文面で、ちなみにカラスの天敵はサシバやフクロウなどの猛禽類だそうです。を削除訂正します。

就学前子育て講座(10月1日)

令和7年度の小学校入学予定者の保護者15名を対象に、就学前子育て講座を行いました。

講師は、徳 裕子先生(大和村教育委員)で、「一人一人の子どもが自立できるように導いていくことが教育のゴール」、「教育の原点は家庭にあり、親は人生最初の教師」等、講話をしていただきました。保護者の皆さんも興味深く話を聞くことができました。

参加された方からは、「今からでも実践できる子育てのポイントを教えて頂いたので、できる事からしていきたいと思います。」「子どもを親の型にはめすぎないように気をつけていこうと思いました。」また、「リフレーミング(見方を変えれば短所も長所)を知って、我が子の気になっていた所を長所だと思えるようになります。」といった感想も聞かれ、大変貴重な講座となりました。

